

こころ医療福祉専門学校佐世保校
令和2年度学校関係者評価委員会議事録

【日時】令和2年8月30日（日）10：40～11：30

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 5階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

井手浩二（いで整骨院）

上田陽介（純心整骨院）

廣瀬典治、篠原卓也、鴨田亮平

（敬称略）

1 開会の辞（司会 篠原卓也）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 学校自己評価の説明と評価（校長 廣瀬典治）

学校自己評価結果報告書について、今年度の4月に県の学事振興課へ提出した令和元年度の内容の評価結果報告である。学校自己評価の内容については目を通していただいていると思うが、各項目については文部科学省の学校評価ガイドラインに沿って記載してある。

はじめに、1、「学校の教育目標」について、岩永学園グループのビジョンとして平成29年に掲げられたものである。「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」この包括的というものは、佐世保校ではスポーツ柔整科のみだが、長崎校では4つの学科がある。それに加えて老人ホームも経営しており、幅広い観点から包括的に支援できるよう取り組んでいる。

実現に向けたテーマとして「地域社会から必要とされる組織であり続ける・地域社会から必要とされる人材を提供する」ことを掲げている。

令和元年度の学校経営目標について説明する。「重点教育目標」の「授業と教育の質の向上」の①がスポーツ柔整科となっており、国家試験合格率100%、就職率100%、医療人としての専門性教育と人間力育成を行う。学生募集に関しては定員30名に対して25名目標をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年は厳しい状況になるのではないかと危惧している。PDCAシステムについては学校自己評価による学力向上と学校活性化に繋げるため、学校自己評価の中で反省、改善点等をチェックして、次年度の目標を掲げている。

2、「本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」の1年間の総括。
まずは、「互観授業、授業研究の実施」について、教員同士で授業形式等をお互い見合
って進度・授業内容を客観的な立場で修正し合うことで指導力向上を図った。特に昨
年度は新任の教員がいたため、ベテラン教員がよく動いてくれた。

「模擬試験結果検討会、学力検討会の実施」について、3年生は模擬試験ごとに結果
をA・B・Cの3段階評価を分析する。その時点で合格ライン以上のものをA評価、努
力を要するものをB評価、このままでは合格が難しいものをC評価とし、特にC評価
の学生には補講授業対象としている。補講の内容は問題解説、確認テストを交互に実
施している。2年生に関しては、基礎学力の定着と自宅学習の習慣化を目的に、週2回
の放課後補講と月1回の確認テストを実施した。

「早期個別面談による意識啓発と学生理解の深化」について、全学年4月と9月に
個別面談を実施し、特に9月面談では前期試験の結果を踏まえて学習指導や生活指導
に関する指摘をした。3年生には模擬試験前に低学力の学生と面談を行って国家試験や
卒業試験に向けて指導を行ってきたが、残念ながら6名が卒業試験に不合格となった。
このことについては、今後の大きな課題である。

「連携校・諸施設との連携・関係強化」について、昨年度は佐世保校では十数件の
整骨院において臨床実習を実施させていただいた。特に問題なく実習を終えることが
できた。

「PDCAシステムによる、組織として機能する学校づくり」について、各科での課
題や目標を設定し、前期・後期それぞれに学科長面談や校長面談を実施した。それぞ
れの部署で掲げた目標を構成員全員で達成するために、独自の推進方策を設定して、
進捗状況を確認し、組織としての到達目標を達成するために実施している。

3、「評価項目の達成及び取組状況」の(1)「教育理念・目標」の中の「学校の理念・
目的・育成人材像は定められているか」という項目について、学生便覧1ページの岩
永学園理念があり、毎朝の朝礼時に全職員で唱和をしている。「学校の理念・目的・育
成人材像・特色・将来構想などが学生・関係者等に周知されているか」については、
入学前のガイダンス、入学後は、保護者面談やHP、こころ新聞等で周知活動に努め
ているが、十分に周知できているとは言い難いため、周知徹底に努めていきたい。

(2)「学校運営」の「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」について、
毎年度「学校経営スローガン」に沿って年度初めに具体的な事業計画を策定している。
今後の改善方策としてPDCAサイクルにおいて、目標達成に向けて、数値目標を多
く取り入れた目標・実施計画を立てる。

(3)「教育活動」の「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」について、昨年度の臨床実習では10施設にお世話になった。授業評価の実施・評価体制について、授業評価アンケートを年2回実施し、アンケート結果を全教員で回覧し、授業改善のPDCAの評価材料としているが、なかなか結果を分析し、各職員、特に非常勤講師への周知徹底できていない。今後の改善方策として非常勤講師と定期的に打ち合わせの実施や教職員が参加した学会やセミナー等の伝達講習会を開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の授業力等、質の向上に努める。

(4)「学修成果」の就職率について、昨年度は94.1%である。(16名/17名)就職者16名中整骨院への就職をした学生は13名である。残り3名は他業種である。

(5)「学生支援」の「学生相談に関する体制は整備されているか」について、平成30年度6月からカウンセラーを導入しており、現在は毎週火曜日に来校いただいている。相談実績は多くはないが、年に2回相談アンケートを実施しており、必要な学生に関しては声掛けを行っている。「学生に対する経済的な支援体制(アルバイトの紹介)は整備されているか」について、毎年4月にアルバイト説明会を実施していたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない。情報提供のみ実施した。機会を見つけて、情報提供に努める。「卒業生への支援体制はあるか」については、不定期ながら、卒後教育として公開講座を開催し、就職や転職の情報交換の場を設ける等、卒業後の支援に努めている。

(6)「教育環境」の「学内での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について、去年より福岡歯科大学での解剖実習を行っており、今年も12月に実施できればと考えているが、新型コロナの影響で現在は未定である。

(7)「学生の受入れ募集」の「学生募集活動は適性に行われているか」について、昨年同様に10月以降の入試開始を徹底しているが、今年からAO入学試験を導入し、7月から面接試験を行う予定としている。合格発表については通常通りの10月以降の期間に行う。募集に関してはDMの強化や松浦鉄道への広告を掲載している。

(8)「財務」に関して、今年は留学生の入学が現在0名となっており、苦しい状況が続いている。

(9)「法令等の遵守」の自己評価結果を公開について、昨年同様でホームページに公開しており、法令順守については学校ということもあり、高いレベルを求められるため、個人情報に関しては特に注意を払っている。

(10)「社会貢献・地域貢献」の「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」について、本校施設に於ける介護福祉に関する職業訓練事業の実施、自治会行事、ボランティア活動への積極的な参加等を通して社会貢献、地域貢献を行っている。

(11)「国際交流」の「留学生の受入れについて戦略を持って行っているか」について、ネパール・スリランカ・ベトナム・インドが中心となっており、質の高い学生を受け入れたいという考えのもと、本学園の理事長が直接現地へ訪問して学生本人と面談を行っている。新型コロナの影響で現時点では、今年度の入国は 0 名であり、留学生の受け入れ定員 120 名に対して、現在は昨年度入学生 43 名の在籍状況である。

3 意見交換

井手) 互換授業はいい取組であるが、どのような経緯で実施することになったのか。

校長) PDCA の取組の中で出てきた。公立高校で実施している取り組みで、指導力向上に直接結びつく。

上田) 来年の国家試験は試験会場の予定などはあるのか。

篠原) 例年は福岡会場だが、明確な通知はまだ来ていない。

田中) 受験については大学も高校もまだわからない。

校長) 日本語科の日本語能力試験 (JLPT) は中止となった。

田中) PDCA は随時更新されているか。

校長) 学科長が科員と面談をし、学科としての目標を作成する。その目標などを考慮して、校長との面談を実施して、改善や修正をしている。1 年後に次年度の目標となるため、年々レベルアップ出来る様にしている。

井手) 卒業生が整骨院へ就職した後のケアはどうしているか。

校長) 機会を見つけて、就職先の事業所訪問を行っているが、次年度から更に機会を増やし、相談等対応できるよう検討する。

田中) 卒業生名簿に関して住所変更等があった場合には随時更新できているか。

篠原) 学校側からの定期的な確認は行っていないため、全員を把握できていないが、卒業生より住所変更等の連絡があれば更新している。

田中) 図書室は現在どこにあるのか、また借りに来る学生はいるのか。

篠原) 昨年は職員室へ貸出用の書籍を置いていたが、現在は 4 階図書室へ移動させている。図書を借りに来る学生は多くはないが、授業等を通して貸出を奨励している。

4 閉会の辞 (司会 篠原卓也)

以上で本委員会を終了する。